

九州地域における地域支援者と拠点病院・行政の連携、相互理解の推進

研究分担者

南 留美 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

共同研究者

首藤美奈子 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

大里 文誉 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

田邊 瑛美 福岡県 HIV 派遣ソーシャルワーカー

研究要旨

HIV 陽性者の長期療養に伴い地域における医療介護連携の必要性がより一層強まっている。本研究は、福岡県における HIV 陽性者の支援経験を有する医療機関や介護福祉サービス事業所（以下、地域支援者）と拠点病院の連携、相互理解の推進のための HIV 陽性者地域支援ネットワーク体制構築を目的とする。

本研究では目的達成のために(1) 医療介護福祉専門職や各事業所との連携および HIV の啓発、(2) HIV 陽性者地域支援実務経験者のサポート、(3) HIV 陽性者の療養支援等に関する課題解決に向けた協議および進捗管理、の3点を柱として取り組みを行った。(1)に関して各職能団体を訪問し HIV 診療の実状を報告し HIV 陽性者受け入れのための協力を依頼した。(2)に関しては地域支援者の連携強化のための「HIV サポーター連携カンファレンス」を2回開催し顔の見える連携を構築することが出来た。(3)に関しては、拠点病院と職能団体や行政、地域支援者、当事者団体等の関係者が話し合う場として「第1回福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議」を開催することが出来た。

HIV 陽性者が安心して利用できる「地域包括ケアシステム」の実現のためには地域における HIV 陽性者に対する理解とともに行政を含めた関係機関の連携が重要である。地域医療・地域社会の問題として、拠点病院だけでなく、行政や職能団体、当事者支援団体が手を携え、水平展開していきたいと考えている。

A. 研究目的

HIV 陽性者の長期療養に伴い、慢性期医療体制の構築、地域における医療介護連携の必要性がより一層強まっている。これまでもブロック拠点病院（九州医療センター）および拠点病院を中心に二次病院、療養施設、介護施設に対し患者受け入れ促進を目的として研修を行ってきた。その結果、受け入れは少しずつ増えてはいるものの、実際には様々な要因から未だに受け入れ拒否が続いている。この受け入れ拒否の問題は、九州各県で起こっており、HIV 診療の「地域包括ケアシステム構築」において障害となっている。本研究は、HIV 陽性者が取り残されない地

域包括ケアシステムの実現に向けて「福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク構想」を掲げている（図1）。まず福岡県をモデルケースとして、医療介護福祉専門職や各事業所に向けた HIV の理解の促進、地域支援者と拠点病院の連携、相互理解の推進のための HIV 陽性者地域支援ネットワーク体制を構築することを目的とする。

福岡県HIV陽性者地域支援ネットワーク構想

HIV陽性者が地域の中で安心して生活できる、地域支援者も安心して支援できる「地域包括ケアシステム」の実現に向けて、拠点病院と職能団体や行政、支援実務経験者、当事者団体等の関係者が手を携え、HIV陽性者の受け入れ協力機関の拡充、サービスの向上を目指す。

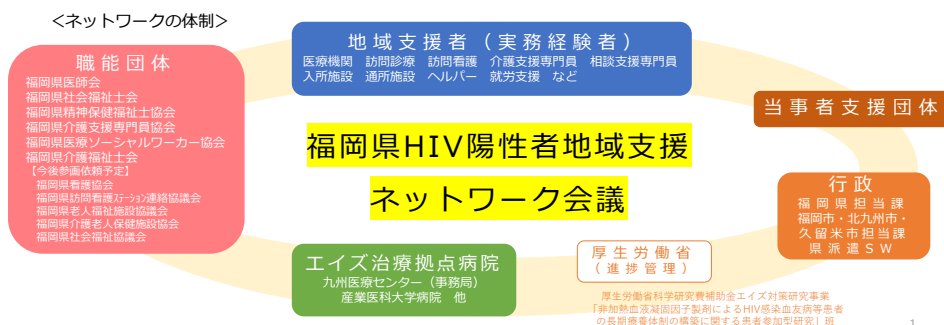


図1

B. 研究方法

上記研究目的達成のために以下の3つのステップを柱として研究を行う。

1) 医療介護福祉専門職や各事業所に向けた HIV の啓発

福岡地域の支援施設や職能団体、県医師会や行政（福岡県、福岡市、北九州市、久留米市）の職員と面談し HIV 医療の現状報告および HIV 陽性者受け入れのための協力を依頼する。また、長期療養において重要となってくる疾患の専門病院を訪問し連携をスムーズにするための助言をいただく。

2) HIV 陽性者の地域支援者の連携及びサポート

地域支援者は HIV への差別・偏見や風評被害を背景として、孤立した支援を行っている。

福岡県 HIV サポーター連携カンファレンスにて、地域支援者、当事者団体、拠点病院が集まり、HIV に関する最新情報の提供や支援者同士の意見交換会を開催し顔の見える連携を構築する。

3) HIV 陽性者の療養支援等に関する課題解決に向けた協議及び進捗管理

福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議にて、医療介護福祉関係の職能団体やエイズ治療拠点病院、行政及び当事者支援団体、地域支援者の代表者が会し、HIV 陽性者の療養支援等に関する課題解決に向けた協議を行う。具体的には、以下のビジョン（①医療介護福祉専門職や各事業所に向けた HIV の理解の促進、②協力機関ネットワークの構築、③ HIV 陽性者の支援実務経験者間連携・スキルアップの場の提供）の実現に向けた進捗管理を行う。

C. 研究結果

1) 医療介護福祉施設や各事業所への HIV 啓発

研究期間の2年間で、行政の職員（福岡県、福岡市、久留米市）との面会、各職能団体（福岡県社会福祉士会、福岡県精神保健福祉士協会、福岡県介護支援専門員協会、福岡県医療ソーシャルワーカー協会、福岡県介護福祉士会、福岡県医師会）および地域医療を担う医療機関（透析、精神科、緩和ケア、回復期、療養、訪問診療等）の訪問を行った。会長や事務局長等と面会し HIV の基礎知識、HIV 陽性者の動向や傾向、支援における課題等説明したのち、啓発への協力、ネットワークへの参加を依頼した。その結果、会員への HIV 啓発や理解促進のための機会を得ることが出来た。具体的には、会員へのフライヤー（図2）の送付4350枚、各団体が開催する研修（福岡県精神科病院協会、福岡県透析医会）や学会（福岡県介護学会）において HIV の理解促進のための機会を得ることができた。

研修および学会後のアンケートにて、HIV 陽性者受け入れ促進のために必要なものとして、各研修、学会ともに「研修会の開催」「拠点病院による針刺し事故時の対応」「コンサルテーションも含めた拠点病院によるバックアップ体制」「職員の賛成」が上位に挙げられていた。拠点病院と受け入れ施設の密な連携とともに、専門分野と HIV 感染の関わりに特化した、より具体的な講演、研修を行うことが効果的であると考えられた。

2) HIV 陽性者の地域支援者の連携及びサポート

地域支援者同士の横の連携、薬害被害者の受け入れ促進、地域支援者と拠点病院との相互理解、連携

の強化のために、「福岡県 HIV サポーター連携カンファレンス」を2回開催した。1回目はオンライン形式で行い、17事業所（訪問看護、訪問薬剤、ケアマネ、入所施設、デイサービス、拠点病院）から計24名が参加した。HIVに関する最新情報の提供、地域での支援事例発表、意見交換、当事者支援団体・薬害被害者支援団体の講演を行った。2回目はハイブリッド形式で開催し、25事業所（訪問看護、訪問薬剤、ケアマネ、入所施設、就労支援、拠点病院、協力病院）から計37名が参加した。前半は「HIV脳症」に焦点を当てて講演および症例提示（同一症例を拠点病院、受け入れ病院、受け入れ施設からそれぞれ提示）を行った。後半は意見交換会にて「顔の見える連携作り」を行った。

カンファレンス終了後のアンケートでは、第1回目、第2回目ともに、今回の研修が「HIVに関する情報のアップデート」「仲間づくり」「拠点病院との連携強化」「地域支援者との連携強化」に役立ったと考えており、改めて「正しい最新情報の発信」の重要性とともに支援者間連携を目的とした研修のニーズがあることが分かった。また、「困ったときの相談窓口の明確化」が役立つと回答しており HIV陽性者の受け入れ促進に際し、病院の相談窓口の明確化が求められていることが分かった。これらの取

り組みを行う機関としては過半数が「行政機関」、「エイズ拠点病院」を挙げていた。行政機関と拠点病院が協力し、地域啓発に取り組むことが望ましいと思われる。また、1回目は薬害被害者の支援に関してのアンケートをおこなった。薬害被害者を支援する上での懸念事項として「血友病についての知識不足」が最も多く、その他、「現場職員の理解」、「薬害被害者のメンタルケア」、「利用できる制度について」が挙げられていた。地域支援者対象の研修では、血友病や薬害被害者の知識が習得できる内容を盛り込むことで懸念事項の軽減・解消が期待できる。

3) HIV 陽性者の療養支援等に関する課題解決に向けた協議及び進捗管理

ネットワーク会議開催に際し「福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議 設置要綱」を策定した。それを基に各職能団体、拠点病院等、関係機関にネットワーク会議に参加出来る委員を推薦いただいた。「第1回福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議」には、行政機関、九州ブロック拠点病院、福岡県中核拠点病院、福岡県拠点病院、各職能団体、当事者支援団体、地域支援者、から総勢34名の委員（表1）が参加した。初回の開催であったため、委員の紹介、本会議設置の主旨と目的、ビジョンの説明、

HIV/AIDS
(エイズは後天性免疫不全症候群)

のことも正しく知ってほしい。

福岡県内には HIV に罹患し、治療している人が約1000人います。HIV 感染症は慢性疾患となった現在、陽性者も暮らさね、中には医療・福祉サービスを利用する方もいます。ところが、限った知識や差別・偏見を背景に受け入れられず、希望されるサービスが受けられない事態が起きています。

CASE 1 HIVの人は受け入れません。
Check! HIVを理由とした受け入れ拒否は、**法律に違反する場合があります。**

CASE 2 HIVの感染対策ができません。
Check! 特別な感染対策は必要ありません。HIVは感染力が非常に弱いので、**日常生活や介護の場面で感染することはありません。**

皆さんの勤める施設・介護の現場にも、HIV 陽性者の受け入れの要請があるかもしれません。**一人ひとりが、「HIV/エイズ」を正しく知ることから始めていきましょう。**

HIV/エイズ出前研修 出張研修・オンライン研修の対応いたします。

対象…福岡県内の医療介護福祉機関
内容…HIV 感染症に関する知識や感染対策、療養支援等
講師…HIV 専門の医師・看護師・MSW 等

研修の申し込みは
☎☎☎ こちらから
九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

HIV 陽性者を安心して受け入れるために是非ご活用ください！

【お問い合わせ先】独立行政法人国立病院機構 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター
TEL: 092-852-0700 (内線: 2501)
*九州医療センターは九州ブロックのエイズ治療ブロック拠点病院に指定されています

令和4年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業

HIV / エイズの基礎知識

エイズと HIV 感染
エイズは HIV (=ヒト免疫不全ウイルス) というウイルスに感染して起こる病気です。HIV に感染すると、徐々に免疫力 (病気に抵抗する力) が低下し、放っておくと約 10 年程でエイズを発症します。

HIV に感染	感染しても自覚症状がほとんどないので、HIV 抗体検査をして、初めて感染が分かります。
急性症状	まれに風邪のような症状が出る人もいますが、無症状のこともあります。
無症状の時期	自覚症状はありませんが、少しずつ免疫力が落ちていきます。
エイズの発病	免疫力が更に低下すると、健康であれば何でもない弱い細菌やカビに感染したり、悪性腫瘍がでたりします。この状態がエイズです。 <small>※HIV/エイズではありません。</small>

ここが大事! **早期発見、早期治療** でエイズの発病を防ぐことができます。

●**HIV の治療**
「抗 HIV 薬」と呼ばれる薬を「毎日」服薬することで、ウイルスの増殖を抑えることができます。通院は 1~3 月に一回程度です。「**確実な服薬**」と「**定期的な通院**」が重要です。

●**こんなことでは感染しません**

- 咳・くしゃみ
- 握手・ハグ
- プールやお風呂
- 入浴介助
- 食事介助
- 口唇ケア
- 便器の共用
- 歯磨き介助

○食器・リネンの共用 ○蚊、ノミ等の昆虫、動物の感染 ※日常生活や介護の場面で感染することはありません。

●**感染力は弱い**
HIV は乾いたところや熱などに弱く、人の体の中に入らなければ生きていきません。通常の業務で行っている感染対策で十分です。

特別な感染対策は必要ありません。

●**どのように HIV は感染するか**

- 性的接触
- 血液感染
- 母子感染

※HIV は血液、精液、母乳に含まれます。

九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センターのホームページ
九州医療センター AIDS / HIV 総合治療センターのホームページで詳しい情報をご覧いただけます。
九州医療センター HIV 検索

QRコードはこちら

図 2

今後の方針、予定について説明した。具体的には、初年度には、行政や職能団体の法定研修・地区研修等での啓発活動を行い、事後アンケートによる実態を調査すること、委員の個別ヒアリングにより意見抽出を行い、課題を把握することを目標とする。会議では拠点病院だけではなく、職能団体等受け入れる立場からの意見を盛り込んだ課題の検証・今後の計画立案を行う予定である。

D. 考察

「福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク構想」の実現のためには、以下の3つのステップが必要と考える。1つは、医療・介護・福祉施設への「HIV 感染症」「血友病」に対する正しい知識の普及・啓発である。九州医療センターでは、HIV 陽性者の受け入れ促進のために受け入れ施設を中心に個別に研修を行ってきた（出前研修+実地研修 計 150 回、受講者数のべ 3438 名）。その結果、受け入れ施設数も徐々に増加し、ある程度の成果を得ている。しか

表 1. 福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議委員

区分	職名
九州ブロック 拠点病院	【会長】 九州医療センター AIDS/HIV総合治療センター 医師
	九州医療センター AIDS/HIV総合治療センター MSW
中核拠点病院	産業医科大学病院 HIV診療センター 医師
	産業医科大学病院 HIV診療センター HIVコーディネーターナース
	産業医科大学病院 HIV診療センター 薬剤師
	産業医科大学病院 HIV診療センター カウンセラー
拠点病院	九州大学病院 総合診療科 医師
	九州大学病院 医療連携センター/患者サービス課 MSW
	福岡大学病院 感染制御部 医師
	福岡大学病院 地域医療連携センター MSW
	久留米大学病院 呼吸器・神経・膠原病内科 医師
	久留米大学病院 医療連携センター MSW
	飯塚病院 総合診療科 医師
	聖マリア病院 患者支援部 PSW
職能団体	公益社団法人 福岡県医師会 常任理事
	公益社団法人 福岡県介護支援専門員協会 常任理事
	一般社団法人 福岡県医療ソーシャルワーカー協会 理事
	公益社団法人 福岡県社会福祉士会 医療委員会委員
	一般社団法人 福岡県精神福祉士協会 委員代理
	公益社団法人 福岡県介護福祉士会 理事
当事者 支援団体	社会福祉法人はばたき福祉事業団 九州支部事務局長
	特定非営利活動法人 ネットワーク医療と人権
	notAlone Fukuoka HIV陽性者交流会 代表
地域支援者代表	訪問看護ステーション ラボールほのぼの
行政	福岡県保健医療介護部 がん感染症疾病対策課感染症対策係 係長
	福岡県保健医療介護部 がん感染症疾病対策課感染症対策係 主任技師
	福岡市保健医療局健康医療部 保健予防課 保健師
	北九州市保健福祉局感染症医療政策課
	久留米市保健所保健予防課 保健師

し一方、受け入れ拒否の事例も持続している。今回、各職能団体への訪問、行政機関との面会を行った。「職能団体」の協力により HIV に対する正しい知識の普及・啓発を効率良く行うことが出来た。しかし一方で、地域支援者における HIV に対する理解が未だ不十分であることを実感した。今後、「職能団体」の協力により、さらに広範囲の地域支援者に HIV の啓発を行っていく予定である。

2つ目のステップは、HIV 陽性者を地域で支援している地域支援者のサポートである。昨年、地域支援者支援のために開催した「第1回 HIV サポーター連携カンファレンス」において、本カンファレンスによる地域支援者間の連携、地域支援者と拠点病院の連携が期待されていることが分かった。今年度は、ハイブリッド形式で開催でき、支援者同士および拠点病院との連携強化につながったと考えている。また、このカンファレンスは、地域支援経験者が参加するため、「血友病」や「HIV 脳症」など、現時点で問題になっているトピックに焦点を当てて実践的に、より深く検討を行うことが可能である。課題の解決だけではなく、地域支援者の質的向上につながることが期待できる。

3つ目は、HIV 陽性者の療養支援の問題を地域医療・地域社会全体の問題として、拠点病院だけでなく、行政や職能団体、当事者支援団体・地域支援者が協力し、水平展開していくことである。その取りまとめの組織として「福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議」を設置した。

今回、2年という短い研究期間であったが、上記3つのステップに取り組むことによって「福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク構想」の土台を築くことができたと感じている。今後、関係者が手を携え、各職種や地域の事情を踏まえながら、HIV 陽性者の受け入れ協力機関の拡充、サービスの向上を目指したネットワークを作り上げていきたい。

E. 結論

HIV 陽性者が安心して利用できる「地域包括ケアシステム」の実現のためには地域における HIV 陽性者に対する理解とともに行政を含めた関係諸機関の連携が重要である。福岡における HIV 陽性者地域支援ネットワーク体制の構築法は1つのモデルとなり得る。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- Uno S, Gatanaga H, Hayashida T, Imahashi M, Minami R, Koga M, Samukawa S, Watanabe D, Fujii T, Tateyama M, Nakamura H, Matsushita S, Yoshino Y, Endo T, Horiba M, Taniguchi T, Moro H, Igari H, Yoshida S, Teshima T, Nakajima H, Nishizawa M, Yokomaku Y, Iwatani Y, Hachiya A, Kato S, Hasegawa N, Yoshimura K, Sugiura W, Kikuchi T. Virological outcomes of various first-line ART regimens in patients harbouring HIV-1 E157Q integrase polymorphism: a multicentre retrospective study. *J Antimicrob Chemother.* 2023 Oct 19;dkad319. doi: 10.1093/jac/dkad319. Online ahead of print.PMID: 37856677
- Toyoda M, Tan TS, Motozono C, Barabona G, Yonekawa A, Shimono N, Minami R, Nagasaki Y, Miyashita Y, Oshiumi H, Nakamura K, Matsushita S, Kuwata T, Ueno T. Evaluation of Neutralizing Activity against Omicron Subvariants in BA.5 Breakthrough Infection and Three-Dose Vaccination Using a Novel Chemiluminescence-Based, Virus-Mediated Cytopathic Assay. *Microbiol Spectr.* 2023 Aug 17;11(4):e0066023. doi: 10.1128/spectrum.00660-23. Epub 2023 Jun 13.PMID: 37310218
- Otani M, Shiino T, Hachiya A, Gatanaga H, Watanabe D, Minami R, Nishizawa M, Teshima T, Yoshida S, Ito T, Hayashida T, Koga M, Nagashima M, Sadamasu K, Kondo M, Kato S, Uno S, Taniguchi T, Igari H, Samukawa S, Nakajima H, Yoshino Y, Horiba M, Moro H, Watanabe T, Imahashi M, Yokomaku Y, Mori H, Fujii T, Takada K, Nakamura A, Nakamura H, Tateyama M, Matsushita S, Yoshimura K, Sugiura W, Matano T, Kikuchi T. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. *J Int AIDS Soc.* 2023 May;26(5):e26086. doi: 10.1002/jia2.26086.PMID: 37221951

2. 学会発表

- Assessment of the effectiveness, safety and tolerability of bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in routine clinical practice: 12-month results of the retrospective patients in the BICSTaR Japan

- study. Rumi Minami, Dai Watanabe, Katsuji Teruya, Yoshiyuki Yokomaku, Tomoyuki Endo, Yasuko Watanabe, Andrea Marongiu, Tetsuya Tanikawa, Marion Heinzkill, Takuma Shirasaka, Shinichi Oka, APACC 2023, 8-10 June, Singapore
- 2 A cluster of phylogenetically close strains to the highly virulent variant of HIV-1 subtype B circulating in the Netherlands was detected in Japan. Machiko Otani, Mayumi Imahashi, Rumi Minami, Atsuko Hachiya, Masakazu Matsuda, Masako Nishizawa, Teiichiro Shiino, Tetsuro Matano, Yoshiyuki Yokomaku, Yasumasa Iwatani, Tadashi Kikuchi, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. IAS 2023 Conference on HIV Science. July 23 - 26, 2023; Brisbane, Australia.
 - 3 Trends in prevalence of pretreatment drug-resistance in Japan: a comparison between the pre- and post- second-generation INSTI era. Tadashi Kikuchi, Mayumi Imahashi, Hiroyuki Gatanaga, Dai Watanabe, Rumi Minami, Shigeru Yoshida, Tsunefusa Hayashida, Lucky Ronald Runtuwene, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, on behalf of the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. INTERNATIONAL WORKSHOP ON HIV DRUG RESISTANCE AND TREATMENT STRATEGIES, 20 to 22 September 20-23, 2023, Cape Town, South Africa.
 - 4 The association of HIV-1 subtypes and transmission clustering with late diagnosis: the first nationwide study in Japan. Machiko Otani, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Hiroyuki Gatanaga, Dai Watanabe, Rumi Minami, Mayumi Imahashi, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, Tetsuro Matano, Tadashi Kikuchi, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network, AIDS 2022, 7.29-8. Montreal, Canada (web)
 - 5 Assessment of the effectiveness, safety and tolerability of bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in routine clinical practice: 12-month results of the retrospective patients in the BICSTaR Japan study. Tomoyuki Endo, Mayumi Imahashi, Dai Watanabe, Katsuji Teruya, Rumi Minami, Yasuko Watanabe, Andrea Marongiu, Tetsuya Tanikawa, Marion Heinzkill, Takuma Shirasaka, Yoshiyuki Yokomaku, Shinichi Oka. Asia-Pacific AIDS & Co-Infections Conference (APACC) 2022, 2022年6月16-18日、(web)
 - 6 Assessment of the effectiveness, safety and tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in routine clinical practice: The 2nd analysis of 12-month results of the BICSTaR Japan study. Dai Watanabe, Katsuji Teruya, Yoshiyuki Yokomaku, Rumi Minami, Tomoyuki Endo, Yasuko Watanabe, Andrea Marongiu, Tetsuya Tanikawa, Marion Heinzkill, Takuma Shirasaka, Shinichi Oka. Korean AIDS Society 2022, 2022年11月18日, 韓国(ソウル) (web)
 - 7 HIV感染症とPremature aging, HIV感染者のメタボリックリスクとART選択 南留美, 第37回日本エイズ学会総会 共催シンポジウム 2023年12月3-5日
 - 8 当院における非AIDS指標悪性腫瘍21例の後方視的検討 中嶋恵理子、高濱宗一郎、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、南留美、山本政弘, 第37回日本エイズ学会総会, 2023年12月3-5日
 - 9 血液製剤院外処方への取り組みと薬薬連携による患者サポートの整備 松永真実、合原嘉寿、山口泰弘、藤瀬陽子、大橋那央、橋本雅司、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南留美, 第37回日本エイズ学会総会, 2023年12月3-5日
 - 10 カポテグラビル+リルピブリンの使用経験とPOMSによる精神神経系有害事象の評価 合原嘉寿、山口泰弘、松永真実、橋本雅司、木下理沙、曾我真千恵、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南留美, 第37回日本エイズ学会総会, 2023年12月3-5日
 - 11 福岡県内のSTI関連病院におけるアンケートの調査 高濱宗一郎、中嶋恵理子、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、南留美, 第37回日本エイズ学会総会, 2023年12月3-5日
 - 12 国内HIV-1伝播クラスタ動向(SPHNCS分析)年報-2022年 椎野禎一郎、大谷眞智子、中村麻子、南留美、今橋真弓、吉村和久、杉浦互、菊地正, 第37回日本エイズ学会総会, 2023年12月3-5日
 - 13 ビルテグラビル・エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド(B/F/TAF)の日本人HIV陽性者(PWH)に対する有効性と安全性: BICSTaRJapan24ヵ月解析結果 照屋勝治、横幕能行、渡邊大、遠藤知之、南留美、田口直、Rebecca Harrison, Andrea Marongiu, 白阪琢磨、岡慎一, 第37回日本エイズ学会総会, 2023年12月3-5日
 - 14 HIV陽性者の受け入れ経験を有する事業所のネットワークを作る取り組み「福岡県HIVサポーター連携カンファレンス」実践報告 田邊瑛美、南留美、首藤美奈子、大里文誉、新野歩,

- 第 37 回日本エイズ学会総会, 2023 年 12 月 3-5 日
- 15 終末期医療に移行した HIV 陽性者へのソーシャルワーク実践—家族へ病名未告知立った際の療養支援— 大里文誉、首藤美奈子、南 留美, 第 37 回日本エイズ学会総会, 2023 年 12 月 3-5 日
- 16 ドラビリンの長期使用に伴う影響調査 山口泰弘、合原嘉寿、藤田清香、松永真実、藤瀬陽子、大橋那央、橋本雅司、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南 留美, 第 37 回日本エイズ学会総会, 2023 年 12 月 3-5 日
- 17 抗 HIV 薬変更に伴う赤血球数の変化について 南留美、高濱宗一郎、中嶋恵理子、城崎真弓、長與由紀子、犬丸真司、山地由恵、合原嘉寿、小松真梨子、矢田亮子、山本政弘, 第 37 回日本エイズ学会総会, 2023 年 12 月 3-5 日
- 18 2022 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向 菊地正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、Lucky Runtwene、椎野禎一郎、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、瀧永博之、岡慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島英明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南留美、松下修三、饒平名聖、仲村秀太、健山正男、藤田次郎、吉村和久、杉浦互, 第 37 回日本エイズ学会総会, 2023 年 12 月 3-5 日
- 19 「HIV、エイズの基礎知識～医師の立場から～」 南留美、福岡県介護学会 2023.3.11、福岡
- 20 HIV 感染症における長期合併症～ Aging を中心に～ 南留美、第 93 回日本感染症学会西日本地方会学術集会、第 71 回日本化学療法学会西日本支部総会 合同学会 2023 年 11 月 7 日、富山
- 21 大都市圏型の HIV 診療～センター病院の HIV 診療現場から。南留美, 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会 2022/11/18 2022/11/18-11/20
- 22 HIV 感染者の早期発見に関するアンケート調査, 高濱宗一郎、中嶋恵理子、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、南留美、山本政弘, 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
- 23 当院における 2 剤療法 of 臨床的検討。南留美、高濱宗一郎、中嶋恵理子、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、山本政弘, 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
- 24 当院における HIV 関連リンパ腫 27 例の後方視的検討。中嶋恵理子、高濱宗一郎、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、南留美、山本政弘, 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
- 25 タブレット版 HAND スクリーニング検査の妥当性と有用性。坂本麻衣子、中尾綾、小山璃久、鶴味詢大、山之内純、中田浩智、松下修三、南留美、山口武彦, 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
- 26 2021 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向。菊地正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、俣野哲朗、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、瀧永博之、岡慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、阪野文哉、森治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南留美、山本政弘、松下修三、饒平名聖、仲村秀太、健山正男、藤田次郎、吉村和久、杉浦互, 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
- 27 実臨床でのビクテグラビル/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド (B/F/TAF) の有効性、安全性及び忍容性の評価; BICSTaR Japan の 12 ヶ月解析結果 (2 回目)。渡邊大、照屋勝治、横幕能行、南留美、遠藤知之、渡邊泰子、Andrea Marongiu、谷川 哲也、Marion Heinzkill、白阪琢磨、岡慎一, 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
- 28 ビクテグラビル開始に伴う精神神経系有害事象の発生状況調査と POMS を用いた検討。藤田清香、松永真実、合原嘉寿、大橋那央、花田聖典、橋本雅司、曾我真千恵、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南留美, 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会 (ポスター) 2022/11/18-11/20
- 29 インテグラーゼ阻害剤における精神神経系副作用の発現状況と POMS による調査。松永真実、合原嘉寿、大橋那央、花田聖典、橋本雅司、曾我真千恵、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南留美, 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会 (ポスター) 2022/11/18-11/20
- 30 「HIV、エイズを正しく知ろう～安心してケアを提供するために～」
「HIV、エイズの基礎知識～医師の立場から～」 南留美
「HIV、エイズの患者を理解するために～社会福祉士の立場から～」 田邊 瑛美
「HIV 利用者を支援してわかったこと～支援経験のある介護福祉士の立場から～」 福田 順子
第 21 回福岡県介護学会 2023/3/11

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
特記事項なし